

フントロストの盗まれた遺産 ロマネスクの情緒的な処女像と子供

起源と特徴：

フランスのPrats-Balaguer Sainte-Marie教会

多色木材

71センチメートル（高さ）

12世紀後半〜13世紀初頭

自治体の財産

1954年3月30日に歴史的モニュメントとして登録

1975年6月23日から29日に盗難にあった



詳細：

Mathias Delcorは、カタロニア語で "colradura" と呼ばれるプロセスである、金を模倣したスズ箔を塗装した木製のアートワークを作製しました。処女像は四つの柱からなる椅子に座っていました。正面に溝があり、後ろにも滑らかな松の円錐で仕上げられています。柱の間には、ロゼットが真ん中に飾りつけられています。処女像と子供の顔は再塗装されました。処女像の左腕は壊れてしまい、矯正されていません。木製の王冠は、代わりに金属の王冠を配置するために削られました。1965年、文化遺産担当官は木材と剥がれかけている錫箔（特に左腕の関節部分）を矯正する必要があると評価しました。

交差した脚を持つ子供の位置は珍しいですが、スタイルの観点から見ると、像はCorneilla-de-Conflent、ErrまたはOdeilloのものに似ています。

写真：次のページの写真を見る

この盗まれた中世の処女像を見つけるための情報があれば、次の連絡先に伝えていただけますと幸いです。ご協力に感謝します：



Mairie de Fontpédrouse

APPCF – Association de Protection du Patrimoine de la Commune de Fontpédrouse

F-66360 FONTPEDROUSE

FRANCE



: +33468970515



appcf66@gmail.com



1



3



4



5



6







